

# 奄美の風だよ

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

NO. 21

(夏号：6)

2005. 7. 10

A N C: News Letter



「アオノクマタケラン」奄美フォレストポリス 6月撮影

梅雨入りした5月はあまり降らず晴れの日が続いていたのですが、6月中頃になってからは一変して雨また雨の日が続きました。しかもどしゃ降りで何ヶ所も崖崩が発生したほどでした。そんなうっとうしい梅雨も昨年より3日遅れで明けました。明けたと同時に太陽がさんさんとふりそそぐ夏の気候へと移りました。

梅雨の頃には雨の恵みをうけて鮮やかに花を咲かせていた植物たちも、強い日差しをあびて日中はぐったりとしています。先日出掛けた奄美フォレストポリスの公園では、アオノクマタケランが小さな花を咲かせていました。大きなスダジイの木陰で風に揺れながら涼しげに咲いていました。

夏至からはまだ間がなく夜明が早い時期ですが、夏鳥たちは夜明けを待たずに薄暗い時間からさえずり始めています。しばらくは近くの木立から聞こえてくる小鳥たちのさえずりで目覚める日々になりそうです。一方海岸の干潟ではベニアジサシなどのアジサシ類が観察される季節となりました。子供たちの夏休もうすぐ、海、川、森へ出掛ける機会も多いと思います。そんな時はぜひ、夏の生き物たちを観察してみたいかがでしょうか。

# お知らせ



## 奄美野生生物保護センターと共催の夏の行事のご案内

### ☆クラフト教室「鳥<sup>たこ</sup>を飛ばそう」

日 時：平成17年7月29日（金） 13:30～16:30

場 所：奄美野生生物保護センター

- \* 大空を自由に飛ぶ鳥の形をしたタコを作って飛ばします。  
竹ヒゴをビニールにセロテープでとめるだけですので簡単に作れます。

### ☆自然観察会「夜の海でウミホタルを探そう」

日 時：平成17年8月8日（月） 19:00～21:00

場 所：大和村 津名久防波堤

- \* 夜の波打ち際で光るウミホタルを観察します。

### ☆自然観察会「絆<sup>きずな</sup>の森で遊ぼう！生き物クイズ競争」

日 時：平成17年8月22日（月） 9:00～11:30

場 所：笠利町 蒲生崎絆の森（集合場所→蒲生崎観光公園駐車場）

- \* 絆の森で、チームに分かれてクイズを解いて行く遊びです。

### ☆クラフト教室「本物そっくり、面白キャンドルを作ろう」

日 時：平成17年8月24（水） 14:00～17:00

場 所：奄美野生生物保護センター（多目的会議室）

- \* 寒天で型をとった物にロウを流し込んで、好きな形のロウソクを作ります。

- \*\* ・定員になりしだい締め切らせていただきます。
- ・保護者同伴でご参加ください。
- ・観察会時の飲みもの等は各自で準備してください。

### ※自然観察会・クラフト教室への申し込み先

・奄美野生生物保護センター TEL0997-55-8620

# 協議会活動報告

**企画展：「外来種ってなに？」**

**日時：平成17年4月29日(金)～5月31日(火)**

**場所：奄美野生生物保護センター(企画展示室)**

**講演会及び外来種駆除作業**

**日時：平成17年4月29日(金)13:00～15:00:**

**場所：講演会・センター企画展示室、外来種駆除作業・三田ごもり**

**講師：前園美樹(平成16年度環境省アクティブレンジャー)**

講演会の様子

4月29日(金)～5月31日(火)までの間、奄美野生生物保護センター開館5周年記念行事として、企画展「外来種ってなに？」を開催しました。

外来種が生態系に及ぼす影響や、6月施行の外来生物法について解説し展示しました。

企画展初日の4月29日(金)には、講演会と駆除作業も行いました。作業前にセンター企画展示室で前園美樹さんが「外来種ってなに？」と題して講演されました。まずはスライドで奄美の希少種を映し出し、さらにテープで鳴き声を聞かせて、子供達に名前を知っていますかと、問い掛けて教えていました。続いて外来種の話に移り、外来種の動植物の写真を映し出しながら、外来種が増えると奄美の生態系に影響が出てくることを例をあげて説明されました。

講演後に外来種である「ウォーターレタス」の駆除作業を近くの三田ごもりで行いました。3月の鹿児島県のイベントで作業をした場所ですが、その時に全部を駆除できずに残っていた分を取り除こうと行ったものです。今回は竹の間にはびこっていて作業がしづらかった所も、剪定ノコを使って竹を除去してから取り除いていきました。膝よりも深い所もあり、何人かは胴長をつけての作業でした。始める前は少なく感じたので、短時間で終わると思ったのですが、案外時間がかかってしまいました。

少ないうちに取り除くことが大事と痛感しました。



作業の様子





# 身近な生きもの情報

## 野生の生きもの観察日記

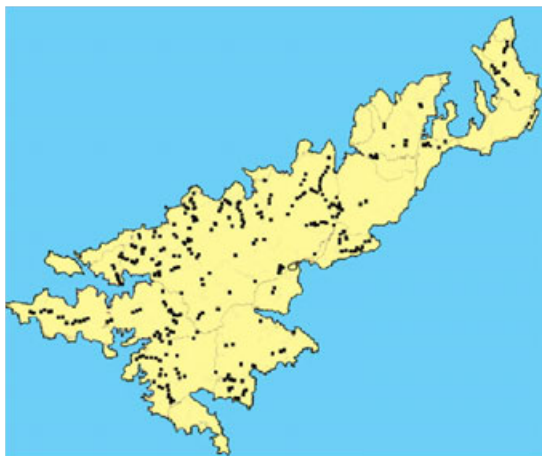
### 『夏の自然日記：カラス、増えていますか？』

雨のシーズンが過ぎ、本格的な夏がやってきました。今年の梅雨は前半にほとんど雨が降らず、空梅雨ではないかと思われましたが、後半になると1週間以上の長雨もあり、梅雨らしさを感じました。海岸に行くと、梅雨入り前に渡来したアジサシ達が子育てをしています。一方川ではこの春に生まれたリュウキュウアユの稚魚（右写真）が15cmくらいに成長して川を上り、石に生えた藻を盛んに食べているのが見られます。いろいろな生き物が活発に活動する季節です。



奄美の留鳥たちが子育てを終え、若鳥が巣立っていくこの時期、センターに『鳥のヒナがカラスに襲われた』という通報が入ることがあります。先日も調査中に、オオトラツグミがカラスに襲われたと思われる現場に遭遇し、後で調べてみると襲われたのは今年巣立った若鳥でした。他にもルリカケスやオーストンオオアカゲラなど多くの鳥の巣がカラスに襲われています。巣の中にいるヒナをさらうこともあれば、巣立ちを待ってヒナが外に出た瞬間に襲うというケースもあるそうです。

カラス（リュウキュウハシブトガラス）は街中から山の奥までどこにでもいる鳥です。街中ではゴミを漁るところがよく見られ、森でも動物の死体などを食べる、“自然界の掃除屋”として知られています。しかし大きくて強じんなくちばしと脚や、鳥の中では高い知能を持ち、集団で行動することも多いカラスは、実は優秀なハンターです。

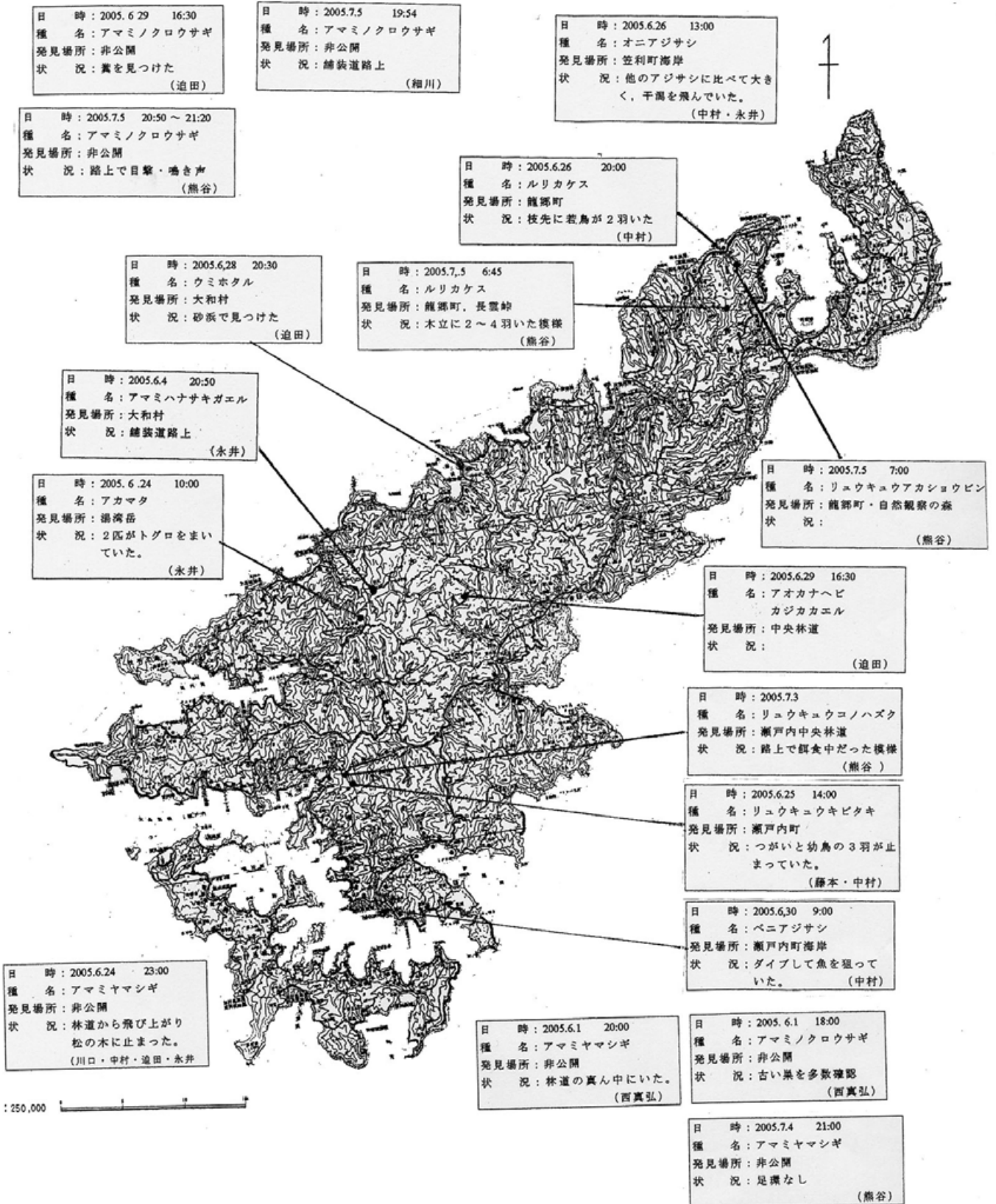


カラスは奄美にもともといる鳥ですが、ここ数年で増えているのでは？という話を島の人からよく聞きます。そこで今年の冬にカラスがどこで見られるかを調査しました。過去の情報がないので、この情報だけで増えたか減ったかは判断できないのですが、分布図（左図）を見ると特によくカラスが記録される場所があるのが分かります。カラスの多い場所、それは集落の周辺や山奥でも人がよく出入りする場所、つまり人の存在がある場所にカラスは多くいるようです。

カラスにノグチゲラのヒナが襲われるところが記録された、沖縄県やんばるの森ではカラスの増加が裏付けられ、その原因の一つとしてゴミを挙げています。人の捨てたゴミでカラスが増え、伐採で小さくなった森にカラスが入り込んで巣を襲う。奄美でも同じことが起きているかもしれません。これから山に入ることが多い季節に入ります。ゴミをきちんと持って帰ること、当たり前のマナーを守ることを心がけたいものです。

（自然保護専門員 中村）

## ◆奄美大島情報(寄せられた情報の一部です)



# 夏にみられる野生生物

※参考文献：図鑑奄美の野鳥・琉球弧・野山の花

「オニアジサシ」 チドリ目 カモメ科 迷鳥 全長52.5cm

くちばしは赤くて太くよく目立ち、体は白色で背や翼の上面が淡い灰色をした大形のアジサシ。尾は灰色で切れ込みが浅く、頭上は夏羽では真っ黒で、冬羽ではごま塩頭になる。足は黒色である。日本では稀な旅鳥として春秋の渡りの時期に単独で渡来し、海岸で魚類などをあさる。なお、大形でゆったりとした飛び方は、アジサシ類よりカモメ類に似ている。奄美では、迷鳥として秋の渡りの時期に何度か観察されている。

鳴き声：カアアツ、キャアアツ、など

記録時期：9月～11月

記録分布：奄美大島、与論島



「アカヒゲ」 スズメ目 ヒタキ科 留鳥 全長14cm

上面が鮮やかな橙赤色の美しい鳥で、雄は頭の下半分から胸にかけては黒色である。照葉樹林のよく茂った谷間など、薄暗いところにすんでいて、春に美しいさえずりを森林一帯に響かせる。また、林縁近くのサトウキビ畑やアダン林などに姿を見せることもあるが、薄暗い茂みから外に出てくることは少ない。男女群島やトカラ列島、奄美大島以南の琉球列島に生息する特産種であるが、奄美に生息している雄は、沖縄諸島の啞種ホントウアカヒゲと違い、脇に黒斑があり、額も黒い。

鳴き声：ヒーヒヨヒヨヒヨ、ピッピルルル/ツィークルルル（警戒鳴き）など

記録時期：1月～12月

記録分布：奄美大島、加計呂麻島、請島。与路島、徳之島



「アオノクマタケラン」 ショウガ科

山地の林内に映える多年生草本。高さ50～150cmに達する。葉は狭長楕円形、長さ30～50cm。両面無毛で表面に光沢がある。花序は直立し、長さ10～20cm。枝軸に3～4花つく。花は長さ約20mm。白色でわずかに紅色を帯びる。クマタケランやゲットウは、本種よりも大型で高さ2mになり、葉も長さ50cm以上。

分布：本州（伊豆七島・紀伊半島）・四国・九州以南



## アクティブレンジャーのお二人紹介します。

自然保護官補佐の  
迫田拓さん



6月から自然保護官補佐（アクティブレンジャー）としてセンターで働くことになりました迫田です。生き物が好きで、子供の頃は虫とりや魚とりをして遊んでいましたが、大人になってからは仕事として自然や生物に関わるようになりました。5月まで東京のコンサルタント会社で、自然環境の調査をしていました。

センターでは、主にマングースの駆除やアマミヤマシギなどの希少な生物の保護に関わる仕事をするようになります。まだ奄美に住み始めて1ヶ月不足ですので、奄美の自然については勉強しなければいけないことがたくさんあります。センターで仕事をしながら、奄美の自然のすばらしさを体感し、また、自然保護に関わってきた皆様にいろいろと教えていただきながら、奄美の自然についてもっと詳しくなりたいと思っています。

奄美の貴重な固有種や生態系の保護に貢献できるようがんばりますので、よろしくをお願いします。

自然保護官補佐の  
永井弓子さん



大和村在住の永井です。迫田さんと同様にアクティブレンジャーとして6月から奄美野生生物保護センターで働いています。5月末に神奈川県からこの地へやってきました。それまでは東京の自然環境調査会社に所属しており、主に現地で生き物の調査をしていました。

これからは、奄美の希少生物を脅かしているマングースの防除事業や奄美の希少固有種であるアマミノクロウサギの保護増殖事業などに積極的に関わっていきたいと思っています。まだまだ奄美について知らないことだらけなので、学んでいくことは盛りだくさんです。

皆様、どうぞあたたかい目で見守ってやってください。よろしくお願い致します。



## わきゃあまみ④「外来種ってなに？」を作成しました。

平成13年度にわきゃあまみ①を作成して以来、平成14年度に②「奄美のチョウ」の下敷き、平成15年度には③自然ものしり双六を作成して、奄美の各小学校へ配布しております。その第4弾として平成16年度の活動では冊子「外来種ってなに？」を作成しました。奄美の生態系に影響をおよぼしている外来種(動物・植物)についてわかりやすく解説してあります。

奄美の豊かな自然を守っていくために役立ててもらえたら幸いです。



「表紙」

## 平成17年度協議会総会の報告

平成17年度の協議会総会が5月26日(木)に奄美会館で開催されました。

- 議 題
- 1.平成16年度活動経過報告について
  - 2.平成16年度収支決算の承認について
  - 3.監査報告
  - 4.平成17年度活動計画(案)について
  - 5.平成17年度収支予算(案)について

\* 平成17年度の活動計画、平成17年度の収支予算が承認されました。

### 後 記

今年も小学生を対象にした夏休み行事をセンターと共催で行います。クラフト教室2回、自然ふれあい行事2回を企画しております。お子様と一緒に参加されてみてはいかがでしょうか。

**編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局**

□ 〒894-3192

鹿児島県大島郡大和村大和浜100

大和村役場 企画財政課

TEL：0997-57-2111

□ (連絡・書類等送付先)

〒894-3104

鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551

奄美野生生物保護センター内

TEL：0997-55-8620

FAX：0997-55-8621